

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100612		
法人名	(株)ケア・トラスト		
事業所名	ぐる〜ぷほ〜む笠市		
所在地	石川県金沢市笠市町11-19		
自己評価作成日	平成29年12月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社emu
所在地	石川県金沢市額新保3丁目257番地
訪問調査日	平成30年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は【日常生活に楽しみを】を施設理念とし、慣れ親しんだ町で家族とともに暮らす家のような雰囲気でも過ごして頂けるように支援しています。
上記をふまえた中で地域行事への参加なども定期的に行い、地域に根付いた施設に向け取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を基に施設としての理念を今年は【日常生活に楽しみを】と掲げ、スタッフ一同楽しむ事を意識して支援を行っている。昨年の課題「チームで作る介護計画とモニタリング」については積極的に取り組まれ、改善された内容で実施され定着している。外出などの個別支援はバスを利用したり、順番待ちをしたり、日常生活に近い支援をされている。
町会長が変わってから地域の回覧板に施設行事など載せて頂けるようになったため、避難訓練に参加して頂いたり、地域が求める事を施設で支援する等、地域連携をこの機会に進めていくことが望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	弊社全体の理念をもとに事業所理念を設定し職員会議の場で共有し実施している。また日頃から弊社の理念を社員が勤務時着用しているネームプレートに記載いつでも見れるようにしている。	法人の理念に基づき、事業所の方針を毎年スタッフの意見も交え作成されている。各フロア毎に前年度の方針を継続するのか、足りない部分を方針にするのか協議され、全体会議で決定している。今年の方針は「日常生活に楽しみを！」であり、ご利用者が楽しむにはまずはスタッフが楽しめるようにと一人一人が方針に向けて実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続して地域のお店での買い物や施設の利用を定期的に行っています。 また地域行事に積極的に参加する事で地域の方と関わりを持てる機会を作っています。	近所のお寺で開催される息災カフェは毎月継続的に参加し、そこに来られている他施設のご利用者とも交流されている。地域の行事である新年会や社会体育大会はご利用者から希望者を募り一緒に参加している。 又、施設で行う夏祭りにはご近所の方がお子様連れで参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の講習会や、運営推進会議などに地域住民や民生委員の方をお誘いし、まず認知症対応型共同生活介護という種類の施設をしていただく事からおこなっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う中で、毎月の取り組みの報告や現在の状況をお伝えし参考にするために参加されている方に意見や考えをお聞きしています。また施設での事故内容などの報告も行っています。また昨年からの改善とし近隣の薬局に駐車場がたりない場合その都度臨時に使用させて頂く等の改善を行っています。	運営推進会議には、ご家族、民生委員、ご近所の薬局の方々が参加されている。施設の状況の報告、事故報告、地域からの要望をお聞きしたり、外部から講師を招き研修等行っている。スタッフは意見を聞き、学ぶことにより日々のケアサービスに活かしている。 又、近隣の薬局の駐車場を使用させて頂いたり、地域連携が進んでいる。	今年度より町会長が変わり、回覧板において施設の行事等をお知らせして頂けることになった。今まで課題であった町会との連携をこの機会に進めていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	金沢市主催のかがやき発信講座を定期的にご利用し、金沢市の担当課と定期的に連携をとるようにしています。また運営推進会議に金沢市介護保険課や地域包括の職員の方にも参加して頂きこちらの情報もその際にお伝えさせて頂いております。	生活保護のご利用者の担当者と毎月連絡を取られている。介護保険課や地域包括支援センターには運営推進会議に参加して頂いている。地域包括支援センターにご家族がご相談に行かれた際もその内容はフィードバックされ連携をとりながら支援されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しましては全職員で身体拘束をしないことを徹底して行っています。玄関の施錠に関しては防犯の観点から施錠させていただいていますが、出入りは行えるようになっております。また、徹底のためにマニュアルをもとに研修を定期的に行っており外部研修へも参加し質の維持向上に取り組んでいます。	身体拘束に関してはマニュアルに基づき研修が行なわれている。身体拘束の中でも言葉遣いは日頃からお互いに注意をするように心がけている。外部研修に参加したスタッフはミーティングで研修内容を発表し、周知している。又、エレベータでご利用者が1階へ降りた場合、1階のスタッフと連絡をとり、協力しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに定期的に施設内研修を実施しております。また定期的に主催される地域にある病院や福祉施設での勉強会に参加し虐待についての知識を学んでいます。学んだないように会議時に職員間で共有し施設での虐待や自宅での虐待がないかを注意し防止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルをもとに定期的に施設内研修を実施しております。また定期的に主催される地域にある病院や福祉施設での勉強会に参加し虐待についての知識を学んでいます。学んだないように会議時に職員間で共有し施設での虐待や自宅での虐待がないかを注意し防止しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に正確に契約等について説明し同意のサインを頂いております。また制度の変更や契約書の内容に変更があった場合は、その都度ご説明させていただき必要に応じて署名など頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者や家族様、職員等を対象に運営推進会議を開催し意見や要望がないかお聞きしています。意見や要望があった場合は速やかに検討させていただき対応を行っております。また入居者様へは日ごろから要望などないかお聞きしています。	アンケートは、1年に1度行っており、今年度は1/3の回答を頂いている。ご利用者に対しては日頃から要望をお聞きしており、外食が楽しい為、外食の希望が多い。少人数での外食はバスに乗って行ってみたり、予約をせずに順番待ちをして普段と同じようにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を実施しており会議の場で職員を対象に提案や意見、要望がないかなど聞いております。上記に対し何かあれば速やかに検討しております。	全体会議の前に各フロアの会議があり、その内容を全体会議で取り上げている。職員の意見として今年は、「雪かきの道具を増やしてほしい」「勤務シフトの早番の時間」などについて意見が上がり、しっかりと協議し対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員を対象とし面談を実施しており個別に話しをする機会を作っています。また、仕事に対するやりがいを増やして頂くため目標設定を行っています。目標の達成具合や状況、悩みや困った事がないかなど定期的に話しをし働きやすい環境作りに取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で開催される研修や外部機関で行われる研修など定期的に参加の有無を職員に確認し知識や技術の向上に繋がる機会を作っています。また施設内研修も定期的に開催しております。その他でも常日ごろからわからない事がないか？等各職員に確認しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域にある病院や福祉施設で開催される研修会などの情報を共有し他事業所と交流できる場を伝えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などお聞きし対応させて頂いております。また入居後も困った事や要望などがないかをお聞きし不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どういった経緯でサービスのご利用を開始するかしっかりと家族様から傾聴し家族様が支援して欲しいと思っている事、入居者様が支援して欲しいと思っている事の双方をしっかりと把握し支援して行くようにしております。また入居者様に何か変化があった場合はもちろんですが普段から近況の様子をお伝えさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などお聞きし対応させて頂いております。また入居後も困った事や要望などがないかを傾聴し不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人の出来ることを見極め職員と共に取り組んでいただく事で、共に過ごしている時間を大切にしています。また家族のような関係で過ごしていただけることを目標としているため、何でも相談しあえる関係作りに取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なんでも職員が対応せずに家族様と共に取り組める事であれば家族様にもご協力いただき、家族様との関わりも継続していけるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度入居された方はこれまでの馴染みの関係がある方と外出や一緒に楽しむ機会を継続できております。以前より入居されている方は現在の本人様の状態等様々な背景から支援ができていません。馴染みのある場所は職員の支援があれば行く事ができる入居者様は近場にかぎり定期的にいけるように継続して支援しております。	今年度入居された方に関してはご家族との外出や友人が訪ねてこられるなど馴染みの関係が構築されている。以前より入居されている方は、本人が覚えていなかったり、もともと馴染みの関係が途切れている方が多く、年賀状を出したり、一緒にお店をしている娘さんに会いに行ったり個別に支援されている。	今後も引き続き馴染みの関係が途切れないように個別支援をされる事を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話の橋渡しを行い関係作りが行えるように支援しております。また他者と関わりを持てる機会作りのためにレクリエーションや行事、ドライブなど定期的に行い共に楽しみを共有できる機会を作っております。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在退去された入居者様の家族様や本人様とは必要に応じ相談や連絡など行える体制となっています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が支援して欲しいと思っている事をしっかりと把握し支援して行くようにしております。困難な場合でも出来るだけ本人様の思いにそようなかたちで対応させて頂いております。難しい場合はしっかりと説明し納得して頂けるように取り組んでいます。	入居時にご本人、ご家族に希望をお聞きしているが、入居しなければ分からない事はその都度ご家族に確認されている。帰宅願望のあるご利用者はご家族と相談し、外出される方もいる。家族の対応が難しい場合はドライブに行くなど、外に行きたい気持ちに寄り添うようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく本人様に過ごしやすい環境を作るために、生活歴や既往歴や本人様の思いをしっかりと傾聴しサービスに取り入れるように支援しております。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を維持する事、本人本位の支援の提供をできる環境作りのために普段から心身の状態を把握し本人様にあった個別の支援を提供できるように努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から家族様や職員と話し合いが出来る場を作り要望や改善してほしいことがないかを話し合っています。また現在ある課題をすこしずつでも改善できるように具体的に支援していく内容を検討し家族様との相談のうえで支援しております。チームケアの質向上のために計画書及びモニタリングをよりわかりやすく書式を変更し記載内容もより具体的になるように家族様・職員・本人様より情報収集をしっかりと行い反映しております。	前回の課題であった「計画からモニタリング、そして次の計画へとPDCAサイクルが機能するように、より適正なモニタリングの記録、計画書の作成が望まれる」に対し、モニタリング、計画書の見直しが行われ、5月に移行が完了されている。ご家族とは電話にて状況の変化点をお伝えし、話し合いや提案をされている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の普段の様子を把握し共有するためにケア等の記録を個別に記載し職員間で共有しております。また改善すべき点も共有し話し合いの場で検討しております。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設全体で様々な個別のニーズに対応できるように、まずしっかりと基本のサービスを取り決め基本のサービスを元に個別ケアを実施することとし、取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店での買い物や施設の利用を定期的に行っています。 また地域行事に積極的に参加する事で地域の方と関わりを持てる機会を作っています。 また本人の持てるかぎりの力を発揮するために本人様及び家族様希望のもと公共交通機関などをよいうて自力で目的の場所に行き楽しみを継続する事等支援を実施しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び家族様が希望しているかかりつけ医を把握し希望にそった医療を提供できるように支援しております。また、状態に合わせてになりますが、毎回同じ医師の診察を受ける事で安心・信頼できるように医療機関と連携をとっております。	2週間に一度往診があり、ほとんどのご利用者が利用されている。対応はナースが行っており、その情報は共有されている。緊急時にはそのかかりつけ医が対応して下さるため、安心して生活が出来る環境が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が勤務しているため変化があった事は看護師へ相談しより適切な対応が出来るように連携しております。夜間は看護師がオンコール対応しており夜間に急な変化があっても対応できるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やか入居者様の情報をお伝えし、適切な対応ができるように務めています。また入院後も医師・相談員・家族様と連携をとり早期に退院し施設に戻れるように連携をとっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態に変化が見られた場合家族様やかかりつけ医へすぐ報告しております。その上で医師の診断により終末期となった場合は、家族様と今後の対応について相談させていただき希望にそったかたちで支援をさせて頂いております。	重度化、終末期の対応が出来ることを事前に説明している。重度化の段階で更にご家族と今後の対応について話をされている。終末期になると、かかりつけ医が一日に何回も来て対応している。ナースの他に担当介護職員をつけ、看取り対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が発生した場合はすぐ緊急対応ができるように普段から指導を行っております。また看護師や管理者にすぐに連絡がとれるようになっており、多人数で対応できるようにしております。急な事故等が起きても対処できるように全職員対象に救急救命の講習への参加や急変時の対応についてマニュアルをもとに研修を実施しております。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡網や対応マニュアルを分かりやすく簡潔に掲示・指導しております。また普段から施設内研修の実施や外部研修等に参加し急な変化に対応出来るようにしております。	緊急時の対応についてはマニュアルにて研修を実施している。連絡方法、緊急対応を全員に周知し、対応できるようにしている。又、転倒時にはナースが判断し、かかりつけ医または入院可能な連携病院に連絡を取り対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	定期的に協力関係機関と連絡をとり連携がとれる体制作りを行っています。	医療機関とは普段から連携が取れており、すぐに対応して頂ける体制が整っている。 介護老人福祉施設とも連携しているが、現在はまだあまり連絡を取り合うことは少なくなっている。	介護老人福祉施設は管理職に異動があるため対応される方が変わられるが、引き続き、支援体制の構築を期待する。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロアに職員を配置しています。また緊急対応が必要になった場合は他階から応援をする事とし看護師や医師、管理者等とすぐ連絡がとれ対応できるようにしております。	夜間は看護師がオンコール対応をしている。ご利用者が熱を出した場合などは介護職員がナースへ連絡し、必要であればナースからかかりつけ医に連絡し対応し、て頂いている。他階からの応援が得られる為、緊急時にも対応できる状態になっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から災害に対する研修や非難訓練を定期的に行なっております。また災害が発生した場合の対応マニュアルも作成しております。	年2回避難訓練が実施されている。市に依頼しハザードマップの研修も行っている。水害に対しての訓練はまだ実施していないが、3階に避難すれば問題ないことを確認している。夜間は音に対してクレームになるため、夜間の避難訓練は実施されていない。	昼間でも良いので、夜間を想定した訓練に地域の方にも参加して頂き、実施することが望まれる。又、水害に対しても全員が3階へどのように避難すべきか検討し訓練することを期待する。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	普段から災害にたいする講習会を開催し、非難訓練なども定期的に行なっております。また災害が発生した場合の対応マニュアルも作成しております。備品は必要と思われるものを適宜用意する事としています。	災害に関しては講習会や研修を実施している。又、備品に関しては緊急用避難袋やライトは準備されている。防災備蓄品に関しては今後、水や食料を人数に対して数日分を適宜準備される予定である。	防災備蓄品に関してこれから色々検討し、準備していくことを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには失礼がないように意識しておりますが、時々強い口調や失礼な話し方で声をかけてしまう職員がいるため改善するように指導を行っております。また接遇に関する研修への参加を行っております。	「ご利用者はおお客様」という意識改革を行っており、接遇の研修も実施している。フロアリーダーは日頃からお声かけについて指導を行っている。更に内部、外部の研修において力をいれていく予定である。	どのような研修が必要で、それに対して内部研修、外部研修をどのように増やしていくのか検討し、次年度の計画に反映させることを期待する。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身の思いを尊重するために自身で選択できる事は自身で選択できるように支援を行っております。			
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望がある方は危険のない程度で希望に沿うサービスを提供しております。入浴や食事時間に希望のない方は定時にサービスの提供をしています。ご自分で意思表示ができないかた、危険な場合がある方は本人様の思いを聞ける範囲で尊重したうえで、医療部分を優先した過ごし方をして頂いている方もいます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に身だしなみを整えています。ご自分でされる方もいますが、本人様に確認しこちらでさせていただくかたもいらっしゃいます。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗いができる方には一緒に取り組んでいただいております。定期的に普段の食事のメニューと別に季節にあった食材や料理の提供をしています。	食事の準備、片付けに関してはご利用者は積極的に行っており、料理に関しても味付けや盛りつけなど行われている。ご利用者のお誕生日はご家族がケーキを持参されることもあり、皆さんと一緒に祝いし、ケーキを頂き、楽しい時を過ごされている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に合わせて食事の形態を変更し安全においしく食べていただけるように支援しています。また脱水にならないように1日の水分摂取量を把握し、飲みすぎや少なすぎる事がないように支援しています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には食事後と起床時に各入居者様に合わせた口腔ケアを行っており、介助の必要がない方には声かけによる支援を行っています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時及びその都度必要時に紙おむつを使用している方も日中はなるべくトイレで排泄できるように声や本人様確認のうえでトイレ誘導を行っています。また自立している方も失敗がないか見守りをさせていただき、日頃から状態確認を行っております。	日中はトイレ誘導で自立支援を行っている。夜は出来るだけゆっくり眠れる事を優先しており、夜中にパット交換を行う場合もある。又、夜だけポータブルトイレを設置する場合もあり、個々にあわせた支援を実施している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認をおこなっており自力で便がでず、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っております。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人様の希望にそった時間に入浴して頂けるように支援はしていますが、一人で入浴困難な方は難しい時間帯の場合入浴時間を変更させていただいております。	朝、昼、夕自由に選択して入浴することが出来る。週2回以上入るようにしており、週3回以上入る方もいる。入浴が嫌な方もどうやったら入って頂けるかが分かるようになり、その方法はスタッフで共有されている。現在、銭湯に行きたい要望に対し、銭湯に行く計画を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人様のすこしやすしいようにして頂いておりますが、昼夜逆転されているかたは声かけし家族様本人様への説明後なるべく日中に起床をうながし夜間に入眠して頂けるように支援をしています。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は完全に嚥下するまで確認しております。誤薬がないように職員で2重にチェックを行っております。新しい薬が処方された場合は職員間での情報共有をしっかりと行い副作用や症状の変化に注意しております。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや、洗濯物たたみなど各入居者様で出来る能力をいかしていただき取り組んでいただいております。その他やりたい事、興味のある事などの要望を定期的に聞く機会を作り支援できるように努めています。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり外出を好まない方が多くいらっしゃいますが、定期的に花見やドライブなど本人様の意思確認のもと外出できる機会を作り無理なく楽しめる程度で支援しています。	全員での外出はお花見や紅葉のドライブがあり、個別の外出では、21世紀美術館へバスで行ったり、駅の百番街やフォーラスのスターバックスへ行かれています。おしゃれをしてコンサートなど個別に支援されている。ご利用者のお気に入りには外食やカフェで、ご家族と通院された後に外食される方もいる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をご本人で管理することや使用することが出来る方がすくなくほとんどの方が施設預かり及び家族様管理となっています。ごく一部支援があれば使用及び管理できる方がいますので、可能な方のみ支援を行っております。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用可能となっておりますが、あまり使用していない状況です。使用への要望も今のところありません。ご自分の携帯電話を持たれている方もいるため他者に迷惑がかからない時間や場所で使用できるように支援しています。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では皆様が過ごしやすしいように汚れ・臭い・明るさなどに注意し普段から清潔を保つように務めています。	テーブルの配置などは、団らんを意識して配置されている。清潔を保つため、清掃やシーツ交換はご利用者と一緒に行っている。ご利用者同士が信頼関係を構築されており、お互いの部屋を行き来され、ご利用者同士の助け合いが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや椅子があり好みの場所を選択し過ごすことができるようになっております。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット・冷暖房設備(エアコン)以外のものは入居時に使い慣れたご自宅で使用されていたものを持ってきて頂くか使いやすいもの・こだわりのものを使用できるように支援しています。その他定期的に確認し使いやすいものなど確認しております。	入居される際に心地よく過ごされるように、ご相談に応じており、購入が必要であれば、お手伝いをしていく。組立が必要な家具は一緒に組み立てしている。又、入居してみて必要になったハンガーなどはご家族に相談して購入している。模様替えなども一緒に行っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の維持を実施するために各入居者様の状態把握を徹底し出来る事は介助せずに見守りや取り組みやすいように声かけや環境の整備をするように支援しています。		